

チュニジア共和国ベジャにおける廃棄物管理のための福岡方式（準好気性埋立）プロジェクト実施



- 「福岡方式」は、日本発の準好気性埋立処分技術。埋立処理場からのメタンガスの発生を抑制し、火災防止、排水の水質改善、悪臭低減、早期安定化を実現する技術として多くの実績有り。
- チュニジアにおいては、増加する廃棄物により、衛生管理が不十分な処分場が存在。温室効果の高いメタンの排出とともに、水質汚染や火災の発生、処分場の崩落などのリスクが課題。
- 首都チュニス近郊のベジャ処分場について、環境省拠出によるUNIDOのJCMプロジェクト早期形成支援を活用し、JCMでは初となる福岡方式を用いたメタン削減プロジェクトを実施することに日・チュニジア両政府が合意。
- 2025年末に完工予定。その後、同国内及びJCMパートナー国への横展開を目指す。

プロジェクトの概要

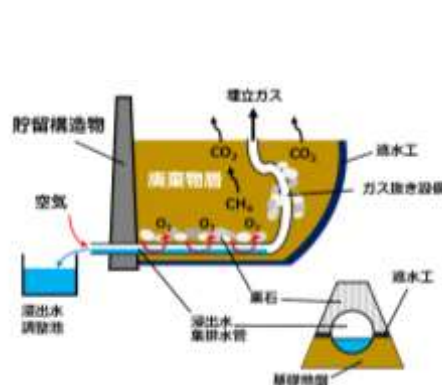
- ・ チュニジアの廃棄物公社（ANGED）とエックス都市研究所が共同で実施。ベジャ処分場の増設計画に合わせて、区画の3分の1程度に福岡方式を導入する。



プロジェクトサイトの空撮と計画図

福岡方式

処理場内に空気が自然と供給される構造を作ることにより埋立層内に空気の流れをつくり、嫌気性ではなく好気性を保ちながら廃棄物の分解を促進する埋立方式。



福岡方式の構造



福岡方式の導入事例
(上：施工前、下：施工後)